

きらきらひかる 中和っこ



土用芽は秋に伸びる芽 くすの木に新しい芽が吹きました

色浅き土用芽風になぶらるる 品川 てい

土用芽につきし小さき蕾かな 高瀬 初乗

中和小のシンボルくすの木。8月も終わる頃、新芽を吹きました。ふと思い返してみるとくすの芽吹きは春。こずえのあたりが薄赤・薄黄になったことを思い出し、晩夏の芽吹きを調べてみると、「土用芽」と言う言葉があることを知りました。



くすの木の土用芽

どようめ【土用芽】 夏の土用の頃に出る植物の新芽。 夏の季語。

太陽が照りだす季節にも鮮やかな芽吹きが見られます。樹木は、春に芽吹き初夏までに枝葉を伸ばして、夏になると一時成長を止めます。そして、晩夏から秋にかけて新たな芽をつけて二番枝を伸ばす成長のサイクルに移ります。この芽を「土用芽」または「夏芽」と言うのだそうです。春の新芽は春から夏に枝を伸ばす芽。そして土用芽は秋に枝を伸ばす芽。晩夏に生まれた芽が秋に大きく枝を伸ばすように、子どもたち一人一人が大きく伸びる二学期にしたいと思います。

76日（登校日数）の二学期 一人一人が自分を伸ばせるように！

9月2日（月）令和元年の二学期がスタートしました。ひとまわり大きくなって元気な顔を見せてくれた子どもたち。40日あまりの夏休み中に大きな事故・けがの報告が1件もなかったことをありがたく思います。ご家庭の皆様のお力添えに改めて感謝申し上げます。

さて、令和最初の二学期は今日9月2日に始まり、12月23日に終業式を迎えます。その間の登校日数は76日、(休日等も含めて113日)と三つの学期で最も多くなります。スタートとなる始業式で子どもたち一人一人が自分を伸ばしてがんばることへの期待を込めて、次のように話をしました。



— 二学期始業式 校長講話より (一部抜粋) —

みなさんをお願いしたいこと。この二学期、みなさんには「自分を伸ばすこと」を目標にがんばってほしいということです。1学期には「基礎」をしっかり固めました。家で言ったら土台の部分、草花で言ったら根っこの部分。そのしっかり固めた「基礎」をもとにして、さらに、力を付けてほしいと思います。

「自分を伸ばす」ことをわかりやすく言い換えると「自分のできることをもっともっと上手にできるようにする」、「今までできなかったことをできるようにする」、「できることを増やす」ということです。先生や友だち、上級生のみなさんにも助けをもらいながら、自分を向上させることです。

何をがんばるのか。それはこれから学級に帰って先生や友だちと話し合いながら一人一人がしっかり決めてもらいたいと思います。たとえば、授業では、一学期、進んで手を挙げて発言できなかった人は発表することを目標にしてもよいでしょう。一学期自分の考えを言えるようになった人は、今度は、考えを言うだけでなく、しっかりと他の人の考えも聞いて、「話し合うこと」ができるようになったら一段パワーアップします。また、12月のマラソン大会に向けて、マラソンのタイムをあげることも「自分を伸ばす」ことになります。友だちにいやなことをいってしまったり、いじわるをしてしまったりという人が、少し我慢強く優しくなって、友だちに優しいことばをかけたり、みんなと仲良くしたりできるようになることも、自分を伸ばしたことになるのです。

この二学期は自分を伸ばすために何をがんばろうかという目標をしっかり持ち、毎日続けて取り組んでいってほしいと思います。がんばるみなさんを先生方も応援します。

【特集】「いじめ」しない・させない・見逃さないために（千葉県「学校から発信する家庭教育プログラム」より）

1 小さな変化も見逃さず 早期発見のポイント

二学期が始まって、今朝お子さんは登校のための身支度がさわやかにできていますか？

普段仲よく過ごしている中和っ子ですが、人が二人集まればそこは社会。時には軋轢も力関係も生まれます。力関係が暴言や暴力、差別的な言動として表れたものが「いじめ」。何気ない一言が思わず相手の心を傷つけることがあるように、「いじめ」はいつでもどこにでも生じるのです。

学校でも子どもたちの言動や変化には十分注意はしておりますが、「いじめ」は大人の目の届きにくいところで起きやすい特性があります。長い76日の二学期はもちろん楽しいことばかりではないはず。努力がなかなか実らないこと・友だちと人間関係でつまづくこと等々、子どもにとって試練となる場面にも出会うでしょう。しかし「いじめ」のような不当な心と体の痛みを伴う事態は早期発見・早期解決することが一番です。

ご家庭でお子さんに心配な様子や気になる姿が見られましたら、気軽に学校にご相談ください。

相談窓口担当 平野教頭

川本養護教諭

特に次のような兆候にご注意くださるとともに、気になりましたらすぐにご相談下さい。

いじめの兆候に^{いちばやく}一早く気付くチェックポイント

- 不審な電話がかかってきて、表情が暗くなったり、ため息をついたりする。
- 感情が不安定になり、□数が少なくなって部屋に閉じこもりがちになる。
- テレビゲーム等の持ち物を売り出したり家庭から金品の持ち出しが頻繁になったりする。
- 衣服の異常な汚れや、けがやあざが見られる。
- 布団から出たがらず、顔色がすぐれない。
- 食欲不振や腹痛、吐き気などを訴える。
- 突然、転校したい、学校に行きたくないなどと言います。
- 急に成績が落ちる。学習意欲がなくなる。
- 弟や妹などの弱者に暴力を振るうようになる。
- 学用品等を紛失したり壊されたりする。

（千葉県教育委員会 人権教育リーフレットより抜粋）

2 「いじめを」しない子どもに育てる

いじめは人間として絶対にしてはいけないことです。ご家庭でも折にふれ、話し合いをしてみてください。

自分も人も大切に思える子を育てるために、心を育て、心をつなぎましょう。子どもたちには、本当に「いじめは人間として恥ずべき行為である。」としっかり理解させましょう。「善悪の判断」「他人の痛みを感じる」「思いやり」などの心をしっかり育みましょう。

～保護者のためのセルフチェックポイント～

《悪いことは悪いとしつけていますか？》

- やってはいけないことや間違っただけはしっかり正している。
- 子どもに対して「自分の行動には責任がともなうこと」をきちんと話している。
- 自分の子どもだけ良ければという考えはしていない。
- 思春期の子どもから逃げずに正面から向かい合っている。
- どんな小さな変化でも、子どもの言動を見逃さないように注意している。
- 身の回りの小さなことから、命や環境を大切にする心を育てている。



《思いやりのある子どもを育てるポイント》

- 家庭で生活の決まりやルールをつくっている。
- 低学年から小さくとも家事を担わせ、責任や自立心を育てている。
- 朝の「おはよう」からはじめて、礼儀を身につけさせている。
- 子どもに我慢を覚えさせている。
→物の買い与えずは、子どもの心をゆがめる。
- 家庭内の年中行事や催事を大切にしている。

【中和小 歳時記】

8月17日（土）旭市小中学校 PTA バレーボール大会



中和小チームは飯岡中チーム相手に善戦しましたが惜敗。チームワークのよさと最後まで頑張った姿が光りました。お疲れ様でした。